

われもこつ 第18号

2005年2月2日 発行

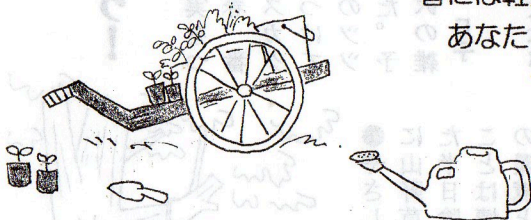
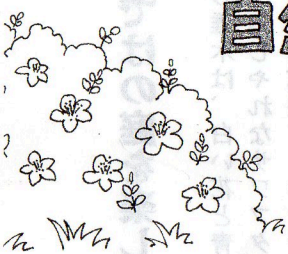


「われもこつ」17号に続いて、

自然にやさしい庭づくり

— 実践編 — をお送りします。 p.2

われもこつの会員の経験談を集めてみました。
あなたの庭造りの参考になったら幸いです。
冬の間、お炬燵でじっくり作戦を練って、
春には軽井沢の自然生態系を壊さない庭を、
あなたと家族の共同作業で創りませんか。



動物たちの2004年 年々猿や熊の出没騒ぎが増加、
その対策はどうなってるの?p.4

軽井沢の貴重な植物 —ルリソウ—p.6

道端に咲く花 —シデシャジン—p.7

山野草を活かして軽井沢ならではの庭を楽しもう！

●湿地を開発してできた別荘地に住んでいます。生垣用のモミが、二〇年も経つうちに大木に育ち、庭全体が日陰になってしまったので、三年前、夫婦二人で思い切って全部切りました。モミを切った翌年、すっかり日あたりのよくなった別荘で、モミの根元に、サクラソウが一株芽を出したのです。「今まで全く気づかなかつたのに、こんなところに！」とびっくり。その後三年間、表土をいじらず、夏の盛りには草刈りをしないで、そっとして置いたら、リンドウ数株、ヤマクワガタの大群落、ヤマハハコの群落、あちらこちらにサクラソウなどが、つぎつぎに咲き出し、再びびっくり。「野の花を待つのも、三年」ですね。 Ak i

●家を建てたとき、予算が足りなくて、雑木の生えていた部分を自然そのままに残しておきました。あとで

その雑木は、白い花と青紫の実をつけるおしゃれなサワフタギ、春一番に可憐な花咲くミヤマウグイスカグラ、大きなおいしい実を毎年つけてくれるクリ、オレンジ色の花のツツジなどだったことを知りました。予算不足でよかつた！ 軽井沢の雑木・灌木を、大切にしよう！ F i

●東京の隣の家に、月桂樹の大木があつたので、苗をもらってきて植えました。ところが、軽井沢の寒さに耐えられず一冬でだめになりました。それから、鉢植えの月桂樹をスタンダード仕立てにして観葉植物のようにして家の中で育てています。毎年、夏の終わりに剪定して、葉を乾燥させて、冬のスープに役立っています。冬は家の中の鉢植えの緑も貴重です。自然には逆らわず、暮らしましょう。 M



●やさしく柔らかい雰囲気庭造りに山野草は欠かせない存在です。また半日陰を好む多くの山野草があることは嬉しいかぎりです。その土地の環境と植生を最大限尊重するも、一〇〇%山野草だけでも寂しいもの。人が加わることで豊かな表情を持たせることができます。この場合いかに園芸種や人工物との折り合いをつけるかのサジ加減がポイント。形、素材、色がくどすぎずシンプルで山野草との融和がはかれ、相互に引き立てあい自然味豊かな雰囲気作りができるものを心掛けています。今私が腐心しているのは、厳寒の冬の間に彩を保つかということです。 太郎山下こぶし沢 羽鳥

●うちの庭は、私の植物の知識が増えるのにつれてどんどん変わっていきます。最初は野菜畑だけ。次の段階はハーブ、コニファーガーデン。観葉植物に凝ったこともありました。花のきれいなムスカリや、スイセンを植えたこともありました。

でも、今は軽井沢にある野草を中心に。われもこの会やお友達からもらった株や、自分が種から育てた花は、春、同じところに咲いてくれて、心やさしい友達が庭に住んでくれるようです。野草の庭にしてから、お金をかけなくても気持ちのいい庭が造れることがわかりました。W子

●街筋から離れ、栗や小楢・こぶしの林に囲まれ暮らしています。

「人の住む建物から別荘地の景観へ空間が自然に連なっていく」庭を指しています。

敷地際には、馬酔木・ドウダン・ユキヤナギのほか、もともとこのあたりに生えていた雑木や野草を織り

交せて植え込みを作りました。山葡萄の蔓やサンショウが伸びているのには植木屋さんもびっくりでしょう。剪定時は、それらの自然な樹形を大切にしています。

建物近くには、バラや石楠花や三つ葉つじといった花木を植えました。色の鮮やかな園芸種の草花は、こけむした素焼きの鉢に植えたり、壁や窓を飾っています。

草花の多くは宿根草で、苗として購入する一年草はほんのわずかです。それらを、日当たりや風通しなどさまざまな微自然を感じて、昔からそこに生えていたと思えるように植えています。

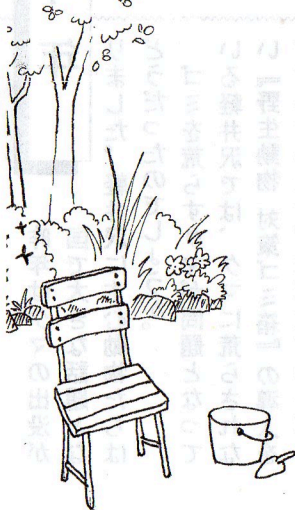
置物を置いたり、プラスチックなどで囲いをするのは、最小限にしています。花壇の土止めも蔓草で覆い隠し、素材の数を少なくしています。

千ヶ滝 村井

●うっそうとした林を切り開き、家を新築して四年。

お日様の光を浴びるようになった裏庭は、(他人の土地ですが)ルリ草をはじめ四季折々に野の花が咲き、図鑑片手に名前を確かめるのが楽しみです。

一方、野草で一杯にするはずだった我が家の庭は、土を削ったせいにか、しばらくは、雑草も生えませんでした。腐葉土を入れ、「われもこの会」から分けてもらって蒔いた種や、前の家などから移植した苗が、やつと根付いてきて、四年目にしてやつと庭らしくなってきました。花は気に入ったところだと、本当に機嫌よく咲いてくれます。これからは花の様子をうかがいながらの庭づくりです。A. H.



昨年はクマの出没が
国で大きな話題とな

最近の猿は網戸を開けて家の中に入ってきます。網戸が開かないよう網戸をしたら、今度は破って入ってきました。それも五、六匹。家中荒し回って糞の置き土産までありました。T雄

■二年前、半開きになっていた裏口の扉から猿が入ってきてバナナを持っていきました。それで、猿が現れると玄関や裏口の扉をチエックして気をつけていたのですが、去年からサツシの網戸を開けて侵入するようになり、猿が来ると夏でも窓の鍵をかけてまわらなくてはなりません。家に入ってきたのはおとなの雄猿みたいでしたが、そのうち雌猿や子猿も入ってくるようになるでしょうね。C.S.

■二〇〇〇年位前まではこの辺の猿といえば碓氷峠でドライバーにおにぎり等をもたらしている姿しか思い出せませんが、そのうち、旧軽井沢によく出没し屋根に糞をしていくという話を耳にす

るようになりましした。線路の北側町内
一帯を循環するようになったのは四、
五年位前からでしょうか。昔は町内で
猿なんて見かけるなんてことなかった
のに、**民家や畑を餌場**にするこ
と、覚えちゃったんですね。日光の猿
みたいにはならないよう（TVで見た
けどスゴイですね）、何か対策が必要
だと思っています。 中軽 I子

■我家でも初の猿害を蒙り、山百合の花と蕾を食い荒らされ、マーキングなのか玄関前に大きな糞と、これまでにない経験です。大日向の農家では、「猿は狡猾で防止策はない。駆除してもらいたい」と事は深刻です。また、過日群れを追跡監視中の猟友会の方に全頭駆除の時期を確認したところ、「反響が大きく簡単には行かない」とのこと、これを聞き一安堵。共生は無理でも、**森へ帰し棲み分け**のできる策はないものか、専門家の判断を待つのみです。 太郎山下こぶし沢 羽鳥

りましした。軽井沢にすむ動物たちは
どうだったのでしょうか。

ゴミを荒らすクマが問題となつて
いる軽井沢では、クマに荒らされな
い『野生動物対策ゴミ箱』の導入を
すすめています。昨年は町の予算で
9カ所に設置され、ゴミ荒らしの被害は
格段に少なくなりました。

いっほうで、増えては困る外来種
のアライグマは、昨年一〇頭以上を
捕獲し、捕獲場所も軽井沢全域に渡
っていて、さらなる増加と分布の拡大
が予想されます。

イノシシの数も年々増えているよう
です。頑丈な鼻で地面を掘り起こし
て植物や虫などを食べるため、別荘
の庭が掘り返されたり、畑の作物が
食べられる被害が発生しています。

サルには「追い払い」などの対策
が行われていますが、依然として畑
や家庭菜園を荒らされる、家に侵入
するなどの被害が減らないよう
です。冬の間は庭に鳥の餌台を置く

方が多いのですが、サルを寄せてしま
うこともあるので、十分な注意が
必要です。

どの動物も人との間に様々な問題
が起こっているわけですが、動物た
ちだけが悪いわけでも、人だけが悪
いわけでもありません。しかし、人
がほんの少し手間や工夫をこらすだ
けで、動物たちとの関係が良くなる
のならば、そうしていきたいと私
たちは考えます。

NPO法人 ピッキオ

◆里山の手入れをするな
ど、動物と人間が住み分
けるためにしっかりとし
た方策を講じることが、
これからは重要なのでは
ないでしょうか。
(編集室)

この本おすすめ!

『自然再生』

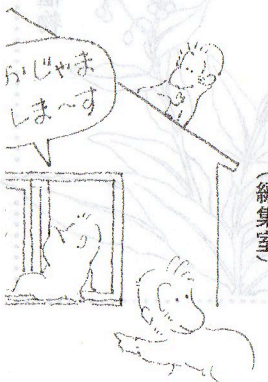
鷲谷いづみ著 中公新書

温暖化と異常気象、酸性雨、環境ホルモ
ン、森林伐採・・・人間がひき起こす環境
破壊は他の生き物たちを次々と絶滅へと追
いやっています。オゾンホールから降りそそぐ
紫外線のせいで皮膚ガンになり命を落とす人
が増え、私たちは数年前から天気予報と一緒
に紫外線情報も受け取るようになりました。

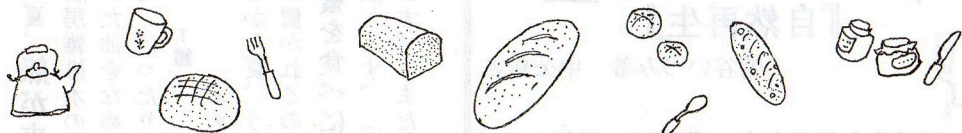
でも、何も知らない、日焼け止めクリームを
塗ることもない野生の動物たちはどうやって
身を護ればいいのかと問う著者の言葉に目か
らうろこ!の思いでした。

「リゾート地で有名な長野県の軽井沢で
も、カラマツ林の植林地の卓越する単純な生
態系から、かつてのような草原や落葉樹林を
まじえた野の花と、それと共生する昆虫など
の豊かな生態系によみがえらせる計画が市民
によって検討されている。」(本書p.150より
抜粋)

里山の再生や水辺の復活など、今生きている
私たちが始めなくてはとり返しがつきませ
ん。本書を読み、現在のヒトの営みの危うさ
に気づいたなら、環境問題はもう他人まかせ
では済まされなくなるでしょう。



ライ麦畑とこんには



子供の頃に食べた重い黒パン・・・この初恋の味にやっと出会ったことができました。昨年夏、発地の畑でライ麦を刈り、その粉でパンを焼くという夢のような体験ができたのです。

七月、真夏の太陽の下で初めて見るライ麦は長身の手強い相手。刈り手と束ね手に分かれ、麦わらのチクチクを物ともせず、皆汗だくです。はげかけの頃にはもう一人前の農家気取りで、おいしいものを土からいただく幸せをかみしめる楽しい作業でした。

そして十月、いよいよライ麦パンに挑戦です。恐いもの知らずの素人が本を頼りに捏ねるパン、それでも穫れたて挽きたての粉ですから香りのあるおいしいパンが焼けました。種まきるときから製粉まで、すべてプロ農家のYさんのお力なのに、「刈り穫る」というほんの一段階に参加させてもらっただけで「私が作ったライ麦粉」と楽しく錯覚し、自分の中で桁外れにアップする、不思議です。畑・オーブン・お腹が直結の幸せな体験でした。

(滋)

● 軽井沢の貴重な植物

ルリソウ

(ムラサキ科)

花期 5 ～ 6月



ゴールデンウィークが終わり人の波が去った頃、林の下に咲き出す小さな瑠璃色の花。日暮れ時は特に不思議な輝きを放っているような気がします。ルリソウは、軽井沢の別荘地ではわりによく見かける花です。とはいえ、長野県のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠBに指定されています。軽井沢以外、県内ではまず見られないそうです。別荘地に空き地と林が残っているうちは軽井沢からルリソウが消えることはないでしょうが…。軽井沢では昔からこの花を「忘れな草」と呼び、慣れ親しんできた身近な山野草です。

道端に咲く花

軽井沢の町の道端には、思いもかけない花が咲いていることがあります。軽井沢の短い夏にせかされるのか、花の時期はほんのひと時、1週間もすれば花は終わってしまい、実をつけるために健気に努力していて、人目につくことの少ない花がたくさんあります。そんな花の一つ、シデシャジン(キキョウ科)のことを、知ってください。

* * *

別荘地の道路際に、毎年シデシャジンが群生して咲く場所がありました。紫の細く切れ込んだ花の中心に黄色のシベを突き出して咲きます。地味ですが繊細で美しい花は、林の中であまり目立たずひっそりと咲いていました。冬の間何度も、除雪車にいじめられても、毎年春には同じところで咲いてくれました。

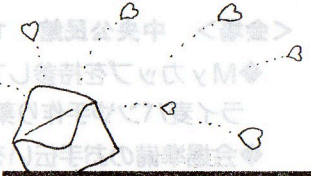
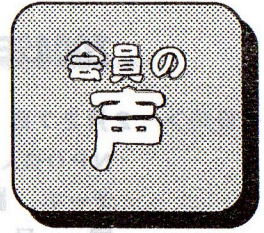
一昨年春、やっと20センチばかりに伸びたのを確認してホッとしていた直後、近所の人に草刈り機で刈られてしまったときはショックでした。でも、花をつけられなくても生き残っていた2株を、去年、われもこうの「前沢の原っぱ」に移植しました。残りの2株はその場に残して様子を見ることにしました。

移植した株はしっかり根付き、夏に見事に花を咲かせましたが、自生地に残した2株は花も咲かずにととう消えてしまいました。

もう1ヶ所、道端の消火栓に寄り添うように生えていた3本のシデシャジンがありました。夏になる前、草刈り機で刈りとられてしまいました。しばらくして同じ株がやっと復活してきたのでホッとしていたら、また再び草刈り機でなぎ払われ、

それっきり芽を出すことはありませんでした。

別荘の管理をしている人は、雑草を刈るのが務めなのでしょうが、もし刈り残しておいて別荘の持ち主に、「シデシャジンはきれいだから残しました。」と言ったらどんなに感謝されるでしょう。不毛の庭はさびしく、野生の花が咲く庭が軽井沢にはふさわしく美しいことを知ってほしいと思います。(K&I)



七年がかりで出来上がった念願の軽井沢の家に二週間ほど住んでから、十一月末に本宅のあるニューヨークに戻りました。庭仕事をしてくれる地元のおじさんと一緒に、「われもこうの会」から分けていただいた種を蒔いておきましたので、春に戻った時に芽が出ていることを、楽しみにしています。ニューヨークは、時々雪がちらつくことがあります。穏やかな天気が続いています。ホームページを注目しています！ 二〇〇五年 お正月 Sumiko



われもこうの会

2004年度総会&勉強会のおしらせ

<日時> 2月27日(日)午後1時30分より
NPO法人ピッキオメンバーの方をお招きして勉強会
テーマ 『動物たちの2004年』(会員以外の方の参加大歓迎!)
同日 午後3時より われもこうの会総会

<会場> 中央公民館 1階 講義室

◆Myカップを持参して下さい。昨年の種分けパーティーで好評だったライ麦パンや手作り菓子で今回もにぎやかにお茶会しましょう!

◆会場準備のお手伝いをできる方は1時頃おいで下さい。

オトナ子どもも参加しよう!

第1回 軽井沢ふれあいフェスタ

～自然とスポーツ～ (仮称)

町内で環境保全に取り組んでいるボランティア団体等が集まって開催する初めてのお祭りです。スライド上映会や写真展など盛沢山のイベントをお楽しみに…!

<日時> 5月15日(日)10:00~15:00(予定)

<会場> 中央公民館

われも券の使用期限が せまっています!

お財布やひきだしに使い忘れの
われも券がありませんか?
3月31日までにお使い下さい。

軽井沢町民の方やゆかりのある方々からお寄せいただいた花の思い出が一冊の本になりました。本の名前は、

『もう一度見たい!』

軽井沢の草原・湿原』

発行 軽井沢サクラソウ会議 / B6判 /
200頁 / カラー写真約80点 / 定価1,000円

※ご予約・お問い合わせは
われもこうの会事務局まで

🌲🌲🌲 編集後記 🌲🌲🌲

ここ2,3年の軽井沢の自然破壊に危機感をいだいて書きたいことが沢山になってしまいました。字が多くなって読みにくくないか心配です。ご意見やご感想等、お待ちしております。

※ ※ ※

ホームページもご覧ください。

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会 事務局 TEL・FAX/ 0267(46)2505